

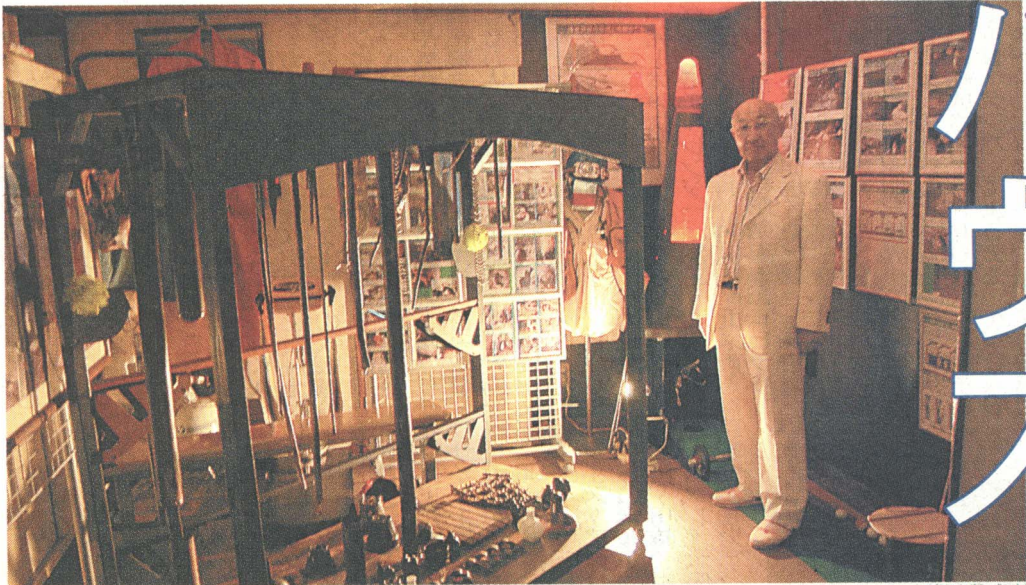
大阪経法大の沢教授

洞窟

ハウス

廃材や百均雑貨で改造

子どもたちにも冒険心を



沢教授が手作りで仕上げた溶岩洞窟模型などの「洞窟ハウス」。向こう側で赤く光るのは、火山の噴火口の模型



床下を活用して水をためた溶岩プール。左側の滝との間で水が環流する

世界の岩石や写真も展示

40年以上にわたる洞窟研究で知られる大阪経済法科大教授の沢勲さん(69)「情報科学」が、廃材や100円ショップの雑貨などを使って、空き家になっていた旧宅を「洞窟ハウス」に改造。「子どもたちには何か夢を一つ持って、それを目指してほしい。洞窟ハウスが夢を見つけるきっかけになれば」と話し、無料開放している。

玄関を開けると、左右には日、韓、中、米など7カ国から集めた岩石約30点、写真約260点が並ぶ。19万年前の日本最古の島根・大根島の溶岩やハワイ島・キラウエア火山噴火口の空撮など、

幅80センチ。天井から垂れるつらら石、下から盛り上がる石筍などを、花瓶や雑貨、ペットボトル、枯れ木などで作り、洞窟らしく色を塗って仕上げた。このほか、車の駐車規制をするカラーコーンをベースにした噴火口の模型、床下を活用して水をためた溶岩プールなども設置。照明を工夫して、まさに洞窟に入り込んだ冒険心がかきたてられる。

沢さんは、小学1年生の時、たいまつを手にとって洞窟に入った際の感動が忘れられず、研究者になってからは7カ国、約300カ所の洞窟を調査し、04年には現在の自宅床下にミニ洞窟を作った。さらに本格的な洞窟製作を業者に見積もってもらったところ、数十万円かかるということで、約2年の材料集めの末、手作りで完成させた。「ハウス」は大阪市西淀川区野里の自宅向かいにあり、見学はファックス(06・6471・6686)で申し込み。ホームページは<http://www.sawaisao.com/>

【嶋谷泰典】

MAINICHI

毎日新聞

発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号 〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社 © 毎日新聞社 2007